

健康通信

2025年9月16日

NO.45

インフル、コロナの定期予防接種が始まります

《 感染症の動向 》

■新型コロナウイルス変異株「ニンバス」の感染拡大が続いており、発熱はあまりないものの、激しい咽頭痛が特徴のようです。

■インフルエンザも流行が始まり、全国的には学級閉鎖がみられます。周囲の診療所からも検査をしたらインフルエンザだったということがみられるようです。インフルエンザの症状は、発熱がみられます。

《 带状疱疹ワクチン 》

■生ワクチン、または、組み換えワクチンの予防接種を行っています。予約が必要です。

《 インフルエンザワクチン・新型コロナワクチン 》

■インフルエンザワクチンは予約なく、10月6日から接種可能となる予定です。

■新型コロナワクチンは予約が必要です。予約開始は10月1日頃になると思われます。

■さいたま市民65歳以上の公費一部負担のある方の料金

- ・インフルエンザ 1600円
- ・新型コロナワクチン 12100円

《 休診のお知らせ 》

- 臨時休診 … 10/11(土)、11/8(土)
- 第五土曜日休診 … 11/29(土)

《 OTC類似薬 》

■OTCは「Over The Counter」の略語でカウンター越しに買えるという意味です。今までは医師から診察後に処方されていた薬の中で、成分や効果が市販薬と類似している薬のことです。財務省の指示で厚生労働省は公的医療保険の適応から外す検討を本格化させています。

■約7000品目で、保湿剤（ヘパリン類似物質：ヒルドイド等）、解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン：カロナール等）、胃腸薬（ファモチジン：ガスター等）、湿布薬（ロキソプロフェンテープ：ロキソニンテープ等）、漢方薬（葛根湯等）、抗アレルギー薬（フェキソフェナジン：アレグラ等）などです。

■これにより、診察や調剤時の説明を受けないで、自己判断での市販薬の服用によって、重い病気の見落としや悪化を招く恐れや、副作用のリスクの高まりもあると思われます。

■国は薬剤費を1兆円減税出来るとしているが、患者の自己負担が増えることは間違いなく、厳密な対応になれば院内処方の医療機関ではそれだけの薬のために薬局に行かなければならなくなる一方、難病の患者など月数万の負担増が予想されます。

《 登坂憲吾 / 循環器内科専門医の外来 》

- 9月 … 27(土)、29(月)
- 10月 … 4(土)、6(月)、18(土)、20(月)
- 11月 … 1(土)、15(土)、17(月)
- 12月 … 1(月)、13(土)、15(月)